

ドイツ国防の全体コンセプト（公開版）（2026年4月）

－軍事戦略及び国防軍のための計画

－欧州に対する責任

The overall concept of military defence

Military Strategy and Plan for the Armed Forces

Responsibility for Europe

➤国防相による序文

- ・世界の安全保障環境の激変
 - －世界の危機と紛争が増加し、相互に影響し合うことで不安定性が拡大している。
 - －これらは地域問題にとどまらず、欧州とドイツに直接影響を与えている。
- ・初の軍事戦略の意義
 - －ドイツ史上初の軍事戦略であり、今後の部隊運用の「羅針盤」となる。
 - －脅威状況を明確化し、抑止と防衛の優先順位を定義する。
- ・国防軍の変革方針
 - －「欧州最強の通常戦力」を構築する。
 - 短期：防衛能力と持続性の強化
 - 中期：能力の大幅拡張
 - 長期：技術的優位性の確立
- ・戦力プロファイルの役割
 - －軍の能力開発の中心文書であり、「単一の部隊セット（Single Set of Forces）」を規定する。
 - －国防軍の長期的な構造・装備・運用の基盤となる。
- ・戦略と能力の関係
 - －軍事戦略は行動方針を示し、能力プロファイルはそのための手段を示す
 - －両者は不可分であり、戦略⇒能力⇒部隊構築の流れを形成する。
- ・公開と非公開の境界
 - －信頼性と透明性のために公開版を作成したが、完全版は SECRET（GEHEIM）として非公開。
- ・ロシアの脅威認識
 - －ロシアは欧州最大の脅威であり、武力を正当な政策手段とみなしている。
 - －武器生産を拡大し、NATO との軍事衝突に備えている。
 - －サイバー攻撃・破壊工作・偽情報などのハイブリッド攻撃は周縁的現象ではなく恒常的脅威。
- ・欧州の自立的安全保障の必要性
 - －国際秩序が揺らぐ中、欧州は自らの安全を確保する必要がある。
 - －特にドイツは NATO と EU 内でより大きな役割を求められている。
- ・国防軍の新たな役割
 - －ドイツは欧州の安全保障においてより大きな戦略的責任を負う。

- －国防軍は国家・同盟防衛に焦点を合わせ、能力を強化する。
- ・人材の重要性
 - －戦略や装備だけでは防衛能力は成立しない。
 - －軍人・文民職員の献身が不可欠であり、彼らに明確な目標と環境を提供する必要がある。
- ・結語
 - －国防軍の未来は今まさに作られている。
 - －政治的意思・資源・人材が揃っており、変革はすでに始まっている。

▶国防軍総監による序文

- ・戦争の再来と備えの必要性
 - －戦争が欧州に戻ってきた
 - －軍事力が再び国家間の主要な手段となり、ドイツは備えなければならない。
- ・360度の安全保障アプローチ
 - －単一領域ではなく、全方向・全領域（360°）の包括的アプローチが必要。
 - －同盟国との緊密な調整が不可欠。
- ・初のシームレスな防衛コンセプト
 - －軍事戦略と戦力プロファイルが統合され、初めて「目的・手段・方法」が一体化した防衛コンセプトが成立。
- ・ドイツの新たな軍事的役割
 - －欧州最大の経済国として、ドイツは NATO 内で軍事的主導性を発揮すべき。
 - －これはパラダイムシフトであり、積極的な役割を担う意思を示す。
- ・戦力プロファイルの意義
 - －NATO の目標と国家目標を統合し、国防軍が果たすべき軍事要件を明確化。
- ・長期的な軍再構築計画
 - －現代戦の教訓を踏まえ、これまでにない長期視点の部隊計画を策定。
- ・イノベーションの重視
 - －戦力は「数」ではなく「能力」で決まる。
 - －AI・無人システム・新技術を積極的に導入。
- ・結語
 - －国防軍の未来はすでに始まっており、変革は現在進行中であり、軍はその中心にいる。

▶第一章 導入

- ・ドイツの新たな役割宣言
 - －ドイツは欧州の安全保障で主導的役割を果たすべき。
- ・ロシアの脅威の本質
 - －ロシアは欧州安全保障秩序を覆そうとしている。

- －戦争を正当な手段とみなし、NATO への攻撃準備を進めている。
- ・国防軍の任務
 - －国家・同盟防衛（最優先）
 - －危機管理（パートナー国の強靱化）
 - －防衛外交
 - －国内支援（災害・治安補助）
- ・単一の部隊セット（Single Set of Forces）
 - －国防軍は全任務を単一の部隊構造で遂行する。
 - －総監が訓練・運用・配備を統合的に管理。
- ・ドイツの戦略的重みの増大
 - －米国のインド太平洋シフトにより、欧州は自立的防衛能力を強化する必要。
 - －ドイツは欧州の中心としてより大きな負担を担う。
- ・結語
 - －国防軍は欧州最強の通常戦力になることを目標とする。

▶第二章 国防軍の軍事戦略の目的

- ・単一部隊セットで全任務を遂行する必要性
 - －国防軍は「単一の部隊セット（Single Set of Forces）」で全任務を遂行しなければならない。
 - －地政学的領域を横断し、複数領域を統合し、戦略的效果を生み出す必要がある。
 - －この全体観を「ワン・シアター・アプローチ（One-Theatre Approach）」と呼ぶ。
- ・戦略の役割
 - －新しい戦略的役割の基盤を形成する。
 - －現在の脅威環境と戦争の特徴を記述し、抑止・防衛をどのように行うかを定義する。
- ・継続的なレビュー
 - －戦略は常に見直され、5年ごとの定期レビュー＋随時レビューで更新される。
- ・戦力プロファイル（Capability Profile）との関係
 - －Military Strategy は優先順位を定め、戦力プロファイルは必要な部隊構造を定義する。
 - －両者は補完関係にある。

▶第三章 脅威環境

- ・多極化と戦略的競争の激化
 - －世界は多極化し、戦略的ライバル関係が強まり、国際秩序が不安定化している。
- ・地域紛争のグローバル化
 - －地域紛争が相互に連動し、欧州・ドイツにも直接影響を与える。
- ・サイバー・情報・宇宙領域の重要性
 - －これらの領域は、攻撃・防御の準備と実行に不可欠。

- －テロ対策も NATO 集団防衛の重要要素。
- ・危機管理の変化
 - －パートナー国の強靱性構築は「競争領域」と化している。
 - －他国の影響力拡大に対抗する必要がある。
- ・「秘密版」の焦点（ロシア）
 - －ロシアは 最も直接的な脅威。
 - －国家総力戦的なハイブリッド攻撃を継続し、長射程兵器で欧州全域を脅かす。
- ・ロシアの戦略目的
 - －NATO の弱体化
 - －米欧の分断
 - －欧州安全保障秩序の再構築
 - －旧ワルシャワ条約機構地域への影響力回復
- ・ロシアの軍事準備
 - －NATO への攻撃準備を進め、すでに加盟国に対してハイブリッド攻撃を実施。
- ・インド太平洋でのロシアの動き
 - －太平洋艦隊・空軍・宇宙軍を活用し、米軍をインド太平洋に拘束する「多正面化」を狙う。

▶第四章 現代戦の特徴

- ・技術革新と戦争の変容
 - －技術革新の速度が戦争の性質を急速に変えている。
 - －情報優勢・システム残存性・相互接続性が勝敗を決める。
- ・技術優位の必要性
 - －技術的優位は「長期的な能力開発」でのみ達成可能。
 - －戦力プロファイルに反映される。

4.1 現代戦の主要な特徴

- ・戦争の境界の消失
 - －国家・経済・社会が同時に攻撃対象。
 - －内外・軍民・平時戦時の境界が曖昧化。
- ・多時間軸戦争（Multi-temporal war）
 - －旧式・現代・未来技術が同時に使用される。
 - －適応力とイノベーションが勝敗を左右。
- ・透明化した戦場
 - －AI＋センサーで戦場が完全可視化。
 - －情報優勢が主導権を決める。
- ・スタンドオフ兵器の脅威
 - －長距離精密打撃により「安全地帯」が消失。

- ・自動化・自律化
 - －AI・無人システムが戦争速度を加速。
 - －認知領域（Cognitive domain）への攻撃が増加。
- ・大量・低コスト兵器の価値
 - －ドローン群など「量」が質を上回る局面が増加。
 - －戦争経済の重要性が復活。

4.2 国防軍への影響

- ・全国家的防衛への統合
 - －抑止には社会全体の強靱性が必要。
 - －軍は「軍でしかできない任務」に集中。
- ・将来適応性とイノベーション
 - －技術革新の速度に追随し、
 - －迅速な導入・運用準備が不可欠。
- ・情報戦の中心性
 - －情報優勢の確保が最重要。
 - －宇宙・サイバー領域の能力強化が必須。
- ・マルチドメイン作戦（MDO）
 - －全領域の統合指揮が必要。
 - －NATO と共同で MDO を実施できる能力が求められる。
- ・スタンドオフ攻撃と防護
 - －敵後方深部への継続攻撃能力が必要。
 - －全射程の防空能力が不可欠。
- ・戦争速度の増大
 - －AI と自律化で作戦速度を向上。
- ・量と質のバランス
 - －高価な兵器だけでは持続できない。
 - －低コスト大量兵器との組み合わせが必要。

▶第五章 欧州最強の通常戦力

- ・ドイツの特別な責任
 - －欧州最大の経済国として、安心供与・抑止・防衛の責任を負う。
- ・新たな戦略的役割
 - －NATO 内でより大きな軍事的役割を担う必要。リトアニア常設旅団はその象徴。

5.1 同盟における抑止と対処

- ・抑止は同盟枠組みでのみ実施

- SACEUR (Supreme Allied Commander Europe:欧州連合軍最高司令官) の計画に従い、戦闘即応部隊を提供。
- ・核共有の継続
 - ドイツは NATO の核抑止に引き続き貢献。
- ・ハイブリッド攻撃への対応
 - 国家総力戦的な強靱性が必要。国防軍は国内防衛にも貢献。
- ・抑止失敗時の対応
 - NATO 防衛計画に基づき、全政府的枠組みで集団防衛を実施。

5.2 新たな戦略的役割

- ・米国のインド太平洋シフト
 - 米国は欧州の自立的防衛を求めている。
- ・ドイツの役割拡大
 - 欧州の安全保障で「戦略的責任」を負う。
- ・3つの要件
 - 自立的防衛能力の確立
 - 欧州域内での独立展開能力
 - 長距離精密打撃・ミサイル防衛などの戦略能力の強化

▶第六章 軍事戦略上の優先順位

- ・優先順位の位置づけ
 - One-Theatre Approach の中核。
 - 全軍の訓練・運用・配備の指針。
- ・優先順位の考え方
 - 行動の相互作用・影響を常に評価。
- ・4つの優先順位
 - Priority 1：抑止と対処能力の確保
 戦闘即応部隊の維持
 戦略能力の強化
 - Priority 2：ハイブリッド攻撃の緩和
 重要インフラ防護
 国家総力戦的対応
 - Priority 3：欧州と南方近隣の安定化
 サヘル（サハラ砂漠南縁部）・北アフリカ・中東での安定化支援
 国連・EU の危機管理への貢献
 - Priority 4：国際的通信・海上交通路の保護
 海上交通路（SLOC）と重要インフラの保護

▶第七章 国防軍戦力プロフィール計画

- ・戦略⇒部隊構造の流れ
 - －軍事戦略上の要求を部隊構造に落とし込む。
- ・目的
 - －迅速で固有の戦闘即応性を持つ軍を構築。
- ・能力ベースの部隊計画
 - －能力とは「装備＋組織＋インフラ＋人員」の統合。
- ・NATO と国家目標の統合
 - －国家戦力目標を統合し、単一部隊セットを形成。

▶第八章 欧州最強の通常戦力へ

- ・脅威環境を背景とした長期構築
 - －2039年までの長期計画。
- ・3段階の構築フェーズ
 - －Phase 1（～2029）：即応性最大化
 - －Phase 2（～2035）：欧州での主導的役割
 - －Phase 3（2039～）：技術的優位の確立
- ・フェーズ間の連続性
 - －Phase 1 の成果が Phase 2・3 の基盤となる。



8.1 組織作りの原則

- ・中核任務の優先
 - －国家・集団防衛が最優先。
- ・新たな同盟内役割
 - －戦略能力の強化が必須。
- ・イノベーション重視
 - －迅速な導入・運用が成功の鍵。
- ・欧州の支援パートナーとしての役割
 - －自立的戦闘能力＋高い相互運用性。
- ・人員計画
 - －2035年までに46万人規模の軍へ。
- ・予備役の強化
 - －予備役は戦力維持の中核。
- ・装備の完全充足
 - －全部隊を完全装備化。

8.2 戦力目標

- ・6つの国家能力目標
 - －長距離精密打撃＋ミサイル防衛
 - －情報優勢（AI 活用）
 - －マルチドメイン作戦を可能にするデジタル基盤（Digital Backbone）
 - －国家指揮統制能力（Operational-level C2）
 - －ドイツを作戦基地として機能させる能力
 - －在外邦人保護・危機対応能力